

教科名	(自由選択)	科目	論文	単位	(1単位)
-----	--------	----	----	----	-------

1. 教科書・テキスト・プリント

各担当者からの配布資料

2. 授業の目標および内容

さまざまな現代的事象に対して、論理的に思考・判断し、表現する力を育成します。

小論文は、単に「獲得した知識を原稿用紙に書き出せば良い」などという安易なものではありません。勿論そのような程度のもも存在しますが、小論文の中心は「思考力」です。単に知っていることを表現するのであれば、「政治・経済」など教科・科目で論述試験を課せば良いのです。そうではなく、解答者のものの考え方や深く考える力、モレなくダブリなく思考する力、複雑な現代社会に配慮しつつ提案するための思考力、こういったことを求めています。つまり、問われているのは軽率で短絡的ではない、粘り強く「考える力」です。

小論文の学習というと、とにかく「ネタ」のような知識を詰め込めば良いと考える人がいますが、これは明らかな誤りです。無論、最低限の知見は得ておく必要はあります。そうでなければ、考える土台が築かれていないこととなります。しかし、「ネタ」的な知識を多く得ることで、小論文を書く際に論旨をそちらの方向にどうにか持っていこうという思考習慣ができてしまいます。このような学習方法は、「考える習慣」を奪っていると言えます。同様に、決められた「型」に則って小論文を書くようにする人がいます。これも明確に誤りです。言うまでもなく、小論文には「作法」があり、「このような考え方・述べ方をすることが多い」というものはあります。が、これは決まりきった「型」などではありません。「型」への当てはめは、先ほどと同様「考える習慣」を奪うことです。現代社会に横たわる様々な複雑な課題に対し、自らの頭で「考え」、その課題に対してはどのような述べ方が最適なのかを「考える力」が問われる小論文で、このように「考える」ことを放棄するような学習方法が好ましくないのは当然です。

本講座では、小論文を書くために必要な思考力を身につけるべく、そのための方法や思考の基盤となる知見を得て、自身で小論文を書く訓練をします。

小論文で鍛えられる「考える力」は、小論文のみならず、プレゼンテーション、大学の講義に参加、グループディスカッション、面接、長文での志望理由書の作成など様々な入試の場面に生かされます。大学も多様な観点からその受験生の資質・能力、主体性や協働性等を試そうとしています。小論文の訓練は、小手先の技術だけでは対応できない、忍耐強さが求められるわけです。

3. 試験について

	1 学期		2 学期	
定期試験	実施しません	実施しません	実施しません	実施しません
学力試験	実施しません		実施しません	

※内容・評価等について

定期試験・学力試験：実施しません。

